

ギャンブル依存症と私

Dさん

「あいつは誘っても来ないよ」この言葉を当時野球部に入りその部室の中で聞きました。同じ野球部の仲間から必ず勝てるからやってみればとよく誘われていた。確かにその当時は千円を持っていきメダル三枚でビックボーナスが引けるお店がサービスで仕込むモーニングがあった。交換可能時間まで店内でウロウロしていれば約六千円の交換ができるという。高校生ながら差額の五千円を手にしそのお金で野球部の同僚が昼食時間に蕎麦屋に行く姿は若干うらやましくもあったが自分は母親から作ってもらったお弁当を部室で食べるそんな日々が続いた・・・

実は自分の家は小さいころから父親のギャンブルで借金の問題が絶えずありよく母親から「あなたはお父さんみたいにならないでよ」とよく言われていた。家がうまくいかないのは父親のせいだと思うとともに、ギャンブルは自分は絶対にやらないと強く思っていた。父親との会話も高校生に入りほとんどなくあんなおやじ出ていけばいいと思っていた矢先、またギャンブルによる暴力・借金が発覚し十七歳のころ父親は出ていき母親との離婚が決まった。

そんなギャンブルに対して嫌悪感しか始めはなく何度か朝に行くモーニングに声はかけてもらいその時の自分の答えはいつも「俺はいいよ」と伝えていました。そんなある日、「あいつは誘っても来ないよ」と話しているのが聞こえたとき何となく疎外感を感じ数日後、少しやってみようかなと伝えたのがスロットへの入り口でした。

一番最初は、パチンコ店に入るのはドキドキしたが慣れるとなんか大人になった気がして仲間に三枚でボーナスが本当に当たり、始めは押しもらったボーナス絵柄が見えるようになり「何これ凄く楽しい！！」とコンチネンタル・スーパーバニーガールなどを好んで遊んでいました。他の機種やパチンコにも手を出し始め気が付けば一日中学校にも行かず一般台の魔界組やフィバー代のブラボー極など様々な機種にも手を出し始め同時に思ったのは親父みたいに借金するような事はせずに上手くやりくり出来ればと思い、当初思っていた嫌悪感は多少持ちつつも少しずつ野球の品物を買う等といった嘘をついてまでするギャンブルになっていました。

嘘をついてお金を借りるときによく母親から「あなたはお父さんみたいにはならないでよ」と言われるのが嫌でした。その場は黙っているのだけど心の中は「親父と一緒にするなよ」と思っていた。買ったレシートを見せてと言われると何か疑われているのでは？とか思いそこまで疑うのならいいわと言って逆ギレしたりしていました。その場合でも、母親は最

最終的には信じてくれてお金を多分出してくれるだろうと過去のやり取りで知っている自分は高校生や専門学校の学生の内は「まだ学生だし社会人になったら考えればいいや」と深く見つめることはしませんでした。

社会人になりギャンブルをする事を続けていた自分は、親にお金を借りないで自分で自立した生活をしないとなと思いました。何故かというと、母親にこの一言を言われたからです。「あなたこのままではお父さんと同じになるわよ。この前もおばあちゃんの所にお金を借りに行ったでしょ。身内には黙っていてと言って・・・」と言われたときに思ったのは、あれだけ内緒にしてと言ったのに・・・わかったと言って貸してくれたのに・・・とその貸してくれたおばあちゃんに怒りを覚えた自分がいました。わかったよと怒り口調で話しそれからは一時的に連絡をしないで自分でやりくりすればいいと思いました。しかしギャンブルはやめていない為、どうしてもお金が必要になる日は遠くなくその時、自分なりに考えた方法はクレジットカードを作ったの現金化でした。当時旅行会社のカウンターで新幹線の回数券を良くカードで買いに来る人が多くなかなか思っていた自分は職場の先輩に何で新幹線の回数券買う人は何でカード支払いが多いんですか？と聞くと先輩から「全ての人では無いがショッピング枠で回数券を買いそれを金券ショップで売れば高く買い取ってくれるから」だと思ふよと聞いた瞬間、このやり方があると心の中でガッツポーズしている自分がいた。ギャンブルをやり続けている自分がより射幸性の強いギャンブルをやるようになっていく時期でもあった。

あつという間に借金が膨らみただ母親には言いたくないなあと次に自分がとった方法はサラリーマン金融でした。やっぱやめたほうがいいかなあ？でもどうするんだよと申し込み前の店舗前には来たがなかなか中に入れなくていた。そうだ電話して怖そうな口調な人が出たらやめようと店舗の電話番号に近くの公衆電話からかけてみた。〇〇〇〇でございますと出たのは怖い人では無く女性の明るくハキハキした感じの人が出て少し安心し、カードを作り借りたい事や現在はクレジットカードのみ借金が有る事を伝えると窓口で身分証明証があれば借りれる仮審査の回答をもらった。「三十分後に店舗に伺います」と伝え公衆電話を切りその瞬間こんなに簡単に借りれるんだあ～やったあ～マジで嬉しいと借金が増えることよりもお金を借りられる喜びのことが大きくその場で叫んだ。店舗に着くと三十万で申し込んでいたはずが、五十万まで借りれますけど如何いたしますか？と言われ「念の為五十万でお願いいたします。」と即答、カードを作成した。有難うございましたとカウンターの女性から頭を下げられてのお礼、借金を申し込んだのに感謝までされ簡単に借りられる事を知り、余計に身内に言うより楽と思うようになっていきました。

ギャンブルの為の借金カードが作れるのを知った自分は、限度額が一杯になると、一社から二社、三社とまた新たにサラリーマン金融に申し込んで、借金が雪だるま式に増えていき

あつという間に自転車操業状態になっていきました。八社三百万位の時に審査に落ちる様になりマジでヤバいどうしよう？と思ったときに頭に浮かんだのは母親でした。仕方がない話ずらいけど、以前も肩代わりしてくれたから今回も話をして救ってもらおうと話をした後日家族会議、「実は・・・」借金の告白をすると母親はあきれかのように「またギャンブル」と言ってきた。その時に咄嗟に自分は「多少ギャンブルもしたけど食事の付き合いや買い物も多かった」と実際はほとんどギャンブル使い果たしたとは決して言えませんでした。

もう二度と借金はしませんとは簡単に言えるのですが、もう二度とギャンブルはしませんとは言えずにその言葉を母親から書いてと言われぬように自分から肩代わりの時に、誓約書書くよと言ってよく書いたのは、もう二度と借金はしませんの言葉でした。肩代わりの時に今回は信じるからと言って出してもらった時や出してくれるなど感じたときは表面上では申し訳なさそうにしていたのですが、内心はガッツポーズをして今度は上手くやればいいと思いながら、余計な事言われる前に一旦外出しようとタイミングを良く見計らって外出し時間をあけて帰宅し自分から今度は気を付けますと伝え身内を安心させていました。

さすがに肩代わりをしてもらった後は、自分なりに上手くやる方法を考えたりもしました。始めは時間を決めて行く、休日だけにする、予め使えるお金だけを持って行きキャッシュカードなどを家に置いていくなどを試しましたが、どれも効果が無く結局長続きしませんでした。この頃からギャンブルをやることに若干後ろめたさもあるせいか家に帰る前に芳香剤をかけて帰ったりしたりもしましたが何となく「どうせもうギャンブルしているのばれてる」と感じるとその行為もやめ、会話もなく目も合わせなくなっていました。

そんなある日、家に帰るとリビングに置き手紙があり「もう一緒には住めません。家賃は払ってあげます。今、家の全財産はこれしかありません。」とキャッシュカードと共に置かれていました。ヤバい出て行っちゃったと焦った自分がまず行ったのは、銀行に行き残高照会でした。残高照会すると二十万円入っておりさすがにこのお金を使っちゃうと本当に連絡が出来なくなると思いこの日は踏みとどまりましたが、今まで借りた金額を取り戻せばいいと三日後、その二十万円を下ろし開店前から並びCRフィーバーワールドや黄門ちゃま、裏モノの沖スロなど射幸性の高い台ばかりを打ち撃沈、僅か五日位で無くなり「仕方がない」しばらくは連絡せずある程度上手くギャンブルがやれるようになったら連絡すればいいや、家賃は払ってくれそうだしと余り深く考えずむしろギャンブルに行きやすくなった環境に安堵している自分がいました。

この時期のギャンブルは毎日、金額の上限は無し、時間は閉店までのサイクルに陥り気が

付けばどんどん借金が膨らんでいきました。借金が増えると何とかしなくてはと思い自分が良く打っていた台ではどうしたって借金が返せる訳がなく、自分が余り打たなかった波の荒い台に手を出し始め気が付けばサラリーマン金融八社約三百五十万の借金になっていました。この頃からサラリーマン金融の無人契約機に申し込んでも「審査の結果融資できません」の返答ばかりで本当に審査しているのかよと思いながら、ただしかし何とか利息だけでも払わないと明日取り立ての電話がかかってくる。どうしよう？時間はもう夜八時だしとその時またもや頭に浮かんだのは母親でした。

この時は、約一時間くらい電話の発信ボタンが押せないでいたが、もうどうしようもないしなあと観念して発信してみると母親の携帯電話からは「現在この電話番号は使われておりません」とメッセージが流れ、家の固定電話・妹の携帯電話も同様のメッセージが聞こえずぐに完全に連絡を取らないようにしていると思い寂しさも覚えたが、「ああそうかよ」と開き直り、なら借りれる手段を探して自分で何とかすればいいんだろと次の日の朝スポーツ新聞を拾いその中の融資コーナーを見るとスピード融資・担保不要・ブラックOKの文字が記載されている融資広告が沢山掲載されていた。一見怪しいなあと思いつつも新聞も一応審査しているだろうと思い電話をすると来店すれば貸すよと言われ、安心し大急ぎで返済日の会社に今日の午後入金旨を伝えると「いやあ～何とかなった」と安堵している自分がいた。

借りれる場所は東京の〇〇だった。はっきりとうちは利息は十日で三割だけどそれでいいなら貸すよ。あと最初は書類代がプラス五千円頂くけどどうするとどこにでもいそうなサラリーマン風の風貌の人に言われた。これが闇金かあ～と思いながらも自分がイメージしていたヤクザ風の人とはかけ離れている風貌に少し安心したのと何が何でも今日利息は払わないとという気持ちから利息は高いけど、十日後に返済すればいいやとあてもないのに融資を申し込み闇金に借りるようになった。意外と神田の闇金はある人がやっているんだなあ～と思いながら、返済が出来なくなったりジャンプ金が払えなくなると近くの闇金に借りての返済をし始めていた。このあたりの闇金は期日を多少遅れても電話すれば恫喝せずにサラリーマンの営業みtainな声でお願いしますよと対応してくれ当初余り怖さはなかった。しかしながら段々と件数が増えていき金額はおろか毎日が返済日の状態になった時に、運転免許証を預けそれを担保に借りたことで他で借りる事が出来なくなりジャンプ金が用意できずある闇金に行き相談に行ったら、Dさん調べさせてもらったけどかなり沢山の会社から借りているね？もう今日あなたの母親に払ってもらおうからおよそ五時間の監禁をされ母親の住所に向かった。行く前は母親の所にはと泣いてお願いをするもじゃあ誰か払ってくれる人がいるのかよと言われても、自分には誰も見当たらなかった。

闇金の店舗前に黒塗りのベンツが用意され自分は後部真ん中の座席に座らされた。「本当

に行くんだ。母親に合わず顔がない。やってしまった。」と様々な感情が駆け巡ったが、闇金の人にタバコ吸うか？タバコ代もなかったんだろ？とクールなタバコを貰い車内で吸った。吸っている途中に闇金の人からあなたの事を救ってやるからお前も協力しろ。母親に脅迫めいた取り立てをするつもりはないが、払ってもらうためにお前は家に着いたらこの人たちはいい人だからと言ってくれ。そうすれば、必ず払ってもらえるようにするからと言われその瞬間にこの人たちに任せればいいやと思う自分がいた。結局この人たちのお陰で払ってもらい自分はその条件としてギャンブル依存症の自助グループに参加する事になった。自分からではなく、仕方なく少し出れば身内も納得するだろうとそんな気持ちで参加してみる事を決めた。

自助グループ参加当日、やっぱり気が進まない・面倒くさいなあ〜と色々考えたが自助グループが行われている横浜に向かった。始めから入る勇気は無くただ身内に行くといったからなあ〜と開始十五分後あたりに会場内に入った。こんなところに来る人はいないだろうと思っていたが人数が多くいて「こんなにも沢山のいるのか？」とびっくりした自分がいた。会場で行われているのは自分の話をただただするだけで「これ続けるの？」と思いながら身内にまあ行って良かったと伝えている自分、「まあ我慢して行き続けてみるか」と仕方なく毎日自助グループに行き続けた。数日後、自助グループの帰りにギャンブルしなければいいんでしょと自分がよく言っていたパチンコ屋のソファに座り台を見始めその後、ゲームセンターのメダルゲームや実機のゲームを「ギャンブルでなければ」と言い訳をしよく遊んだり見たりしている自分がいた。このことあの自助グループで話したほうがいいのかなあ〜と思ったりもしたが、別にギャンブルでは無いし見ただけだしと話すことは無かった。少しずつ自助グループに行ったらという気持ちが芽生え一回目の自助グループは約三カ月で行くことをやめそしていつものように身内とは連絡しない日々が続いた。自助グループに行かなくなって約三カ月後そして再発同じことの繰り返しだった。再発直後、東京の町田のパチンコ店の外でタバコを吸っているとミーティング帰りの仲間が目の前を通った。咄嗟にヤバイと店内に入って通り過ぎた後、「もう会うことはないだろう。あんな生活していて哀れな奴ら」と呟き自分はスロットジャグラーを打ちに店内に戻った。

同じ問題を繰り返し、身内からは相手にされなくなり、仕事先の旅行会社にも横領や同僚への借金が明るみになり首同然の恩情自主退職、警備員の仕事は交通費が無く行けずの無連絡退職、カラオケ屋でのサービス券横領や同僚への借金・闇金の取り立て電話が行くことに恐れての無連絡退職、携帯電話のアドレス帳の名前が段々と減ってきて自殺も考えたがそんな勇気も無く、家で日韓ワールドカップだけは見ようと決めていたにも関わらず借金を何とかしなければと東京新宿に台の横にテレビがついているパチンコ屋を発見しそこで打っている自分、もう毎日がいっぱいいっぱいだった。そう何かを追われるように・・・そしてもう駄目だ逃げないと思ひ、中間施設に行くしかない決めて次の日に中間施設に

行きました。

平成十七年七月本当は中間施設は選びたくなかったが本心でした。ただ家には闇金からの取り立て訪問、金返せの張り紙や電報などが来たり、電気。ガスが通ってない部屋でビクビクと過ごすよりもましと思ったからです。そんな自分を入れてくれ集団生活には最初は嫌で違和感があった自分ですが、一日一日と過ごしていくうちに仲間と遊んだりパチンコ台の話で盛り上がったりしてこの現状を受け入れる自分もいれば逆に何か苦手な仲間にも無理に話しかけたり、合わせたりする自分はどうなんだろうと思ったそんなある日施設の掃除の時に「おいお前掃除しろよ」という言葉を聞いた瞬間、自分以外も沢山いたのに「なんで俺だけ・・・」という気持ちから大喧嘩に発展してしまいました。ヤバイ多分出て行けと言われるだろうと思っていたが、施設長からは「あなたの場合は感情を言えて良かったんだと思う。下手だけどね。でも、気を付けてください」と自分には思いがけない言葉でビックリした自分がいた。。

ギャンブルをやっていた時、誰一人相手にされなくなった自分に対しギャンブルをやらない生き方をすることにより、声をかけられるのは何となく嬉しく感じ「こんな俺にも居場所がある」と思えてからちょっとずつ、少しずつではあるが自分の感情に向き合い、さみしい・うれしい・ありがとう・こう思うなどを伝えていくことで失敗も多いですが気持ちを伝えることにより後ろ向きな自分を、前向きにさせてもらいました。今までは、自分がギャンブルをすることにより、気持ちを隠し・ごまかすのが当たり前の生き方で生きてきて自分や他人・物などを責める事ばかりを繰り返し、それによって自分を見ないようにしてきた気がします。何となく気を使いすぎと思うなら気を使わないようにすればいいというのは簡単ですが自分はどうしても気に入られたい・評価されたいと無意識にそういう行動をしてしまい人間関係のストレスなどを埋めるための居場所の一つにギャンブル場が必要でその結果、ギャンブルにのめりこんだ。そういう部分は自分はあると思います。勿論、ギャンブルのせいでは無いですが・・・断る勇気や一歩踏み出す行動をするとき自分は大体恐れが出ます。今まではそこを見ないように避けて来ていたように感じます。自分のことは自分が良く分かっていると自分は身内に何か言われるとよく言っていました。これは、余り深く考えていないのと相手に主導権が行く事への一種の咄嗟に出る防御言葉だったと今では思います。一二ステップをする事により自分を知り対処法を見つけギャンブルをやめていくキッカケを自分は貰いました。過去は人任せの生き方をあまり深く考えずにいましたが、よくよく考えると人からあれしなさいなどの指示をされても途中で自分からした方が良いと思わないと結果続かないと自分は思います。変えられるのは自分次第だと思います。

「生きづらさ」はこれからもギャンブルをやらない生き方をすれば見えてきます。変えるには勇気と行動が必要な事、それを気づかせてくれるのは一人で気づくのでは無く仲間の

存在だと思っています。この生活をしていると人間関係で悩む事があっても仲間のアドバイスを聞き嫌でも実践してみると結果上手く行く事が多く、過去の自分なりのやり方で何とかしようともがき悪くなってから助けを求める事の繰り返しだった自分が今、ギャンブルをしない生き方を送り今では色々な意味でゆとりがある生き方を過ごさしてもらっています。そして、平成二一年三月に結婚もすることが出来ました。ギャンブルをしていた頃は、自分の中で諦めていた生き方でした。これからも、ギャンブルを必要としない生き方を送っていきたいと思っています。